

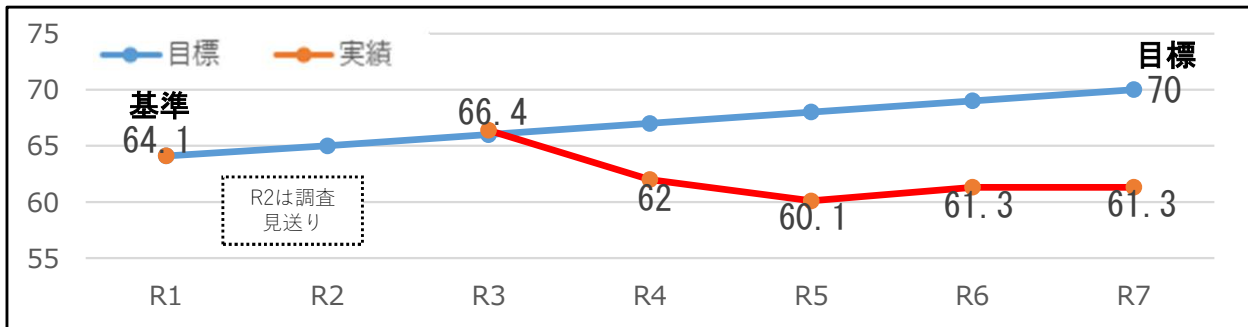
4 第1期プランの取組状況

4-1 第1期プランの主な取組み

全体に関して

第1期くるめ支え合うプランでは、地域共生社会の実現に向け、「関係を豊かにする」「寄り添う体制を整える」「地域をともに創る人を育む」ことにより、「支え合うところあふれるまち くるめ」をめざし、地域住民等、市社協、市が連携し、それぞれの役割において取組みを進めました。

■成果指標「地域での支え合いや助け合いが充実していると感じる市民の割合」

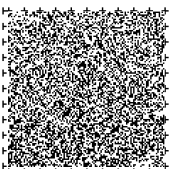


「関係を豊かにする」に関して

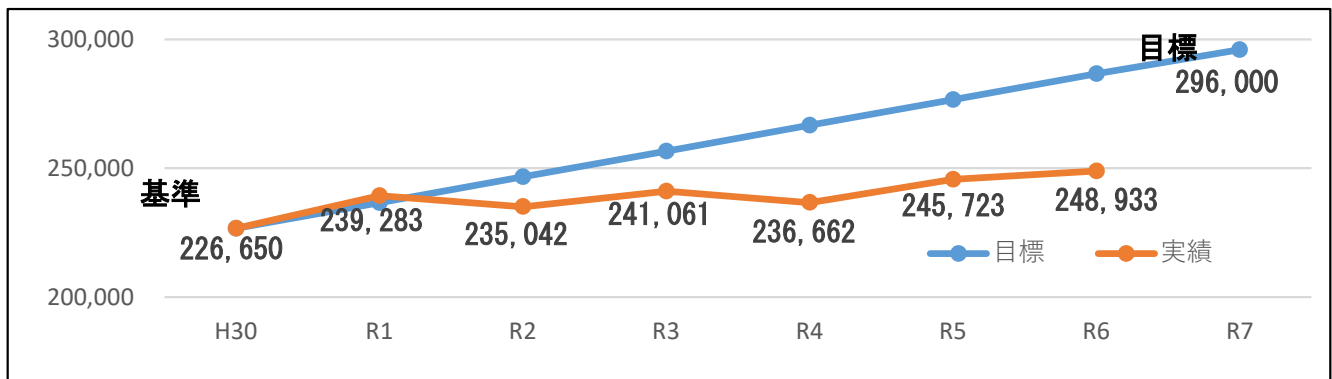
関係を豊かにするため、「つながりの構築」「見守り活動の推進」「誰もが集える場の拡充」に取り組みました。

【具体的な取組み】

- 市内全46校区に支え合い推進会議(第2層協議体)が設置され、生活支援コーディネーターが伴走する体制を構築した。地域住民等が話し合う場である推進会議を通じて、生活支援団体の立ち上げや運営、新たな交流の場の創設が進んだ。 **地 社 市**
- 校区福祉活動計画の策定・見直しを推進し、各種団体間の情報共有や活動支援につなげた。
・策定校区数:27校区(令和6年度末時点) **地 社**
- 市民活動団体や当事者団体との連携、市社協・市との連携が進む。課題を抱える当事者同士のゆるやかなつながりづくりや充実したサロンづくりなどを支援し、人と人とのつながりや人が集う場づくりを推進した。 **地 社 市**
- 地域全体の見守りを行う「くるめ見守りネットワーク」を推進した。 **地 市**
・協力事業者:167事業者(令和6年度末現在)
- コロナ禍を契機に、食料支援を通じたつながりづくりや見守り活動が充実した。市社協では、食料配布を通じた食料支援団体とのネットワークの構築を進め、市では、こども食堂の取組みを促進する補助制度や食料支援団体を支援する補助金などを創設し、多様な主体の活動を支援した。 **地 社 市**
- 各校区支え合い推進会議や支え合い活動などを紹介する「つながるスイッチ!!」、支え合いの活動に関わる人や団体などを紹介する地域福祉マガジン「グッチョ」の発行等を通じ、支え合う意識の普及・啓発を図った。 **社 市**



■成果指標「地域での見守り訪問活動件数(ふれあいの会による訪問活動件数)」

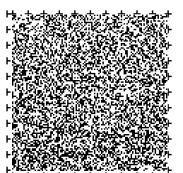


「寄り添う体制を整える」に関して

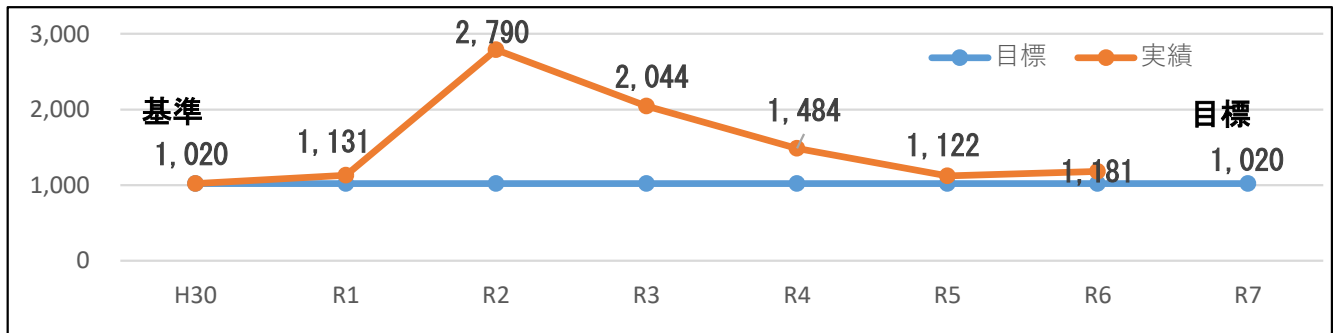
寄り添う体制を整えるため、「個別の対応が必要な人への支援」「災害時に支援が必要な人への支援」「権利擁護の推進」「多機関連携の推進」「財源確保の推進」に取り組みました。

【具体的な取組み】

- 重層事業により、従来の分野ごとの相談支援体制を基盤として、複合的な課題や制度の狭間の課題を持つ人や世帯等を包括的に受け止める、断らない相談支援体制の整備に取り組んだ。個別支援や各種会議開催を通じ、支援関係機関の連携強化や多様な主体とのネットワーク構築を進めた。 **地 社 市**
- 外国人、若者、ヤングケアラーなどの相談支援体制の充実を図った。 **社 市**
- 市、市社協、事業者、居住支援団体等による「久留米市居住支援協議会」の設立や、市による居住不安定者等居宅生活移行支援事業による居住支援を実施した。 **地 社 市**
- 「久留米市再犯防止推進計画」の策定や社会を明るくする運動への参加、重層事業の実施などを通じ、更生保護の関連機関や久留米保護区保護司会をはじめとする関連団体等と連携し、再犯防止の推進に取り組んだ。 **地 社 市**
- SOSの出し方教育、職域でのゲートキーパー養成の拡充など自殺対策を推進した。 **地 社 市**
- 避難行動要支援者名簿を活用した図上訓練や個別避難計画(災害時マイプラン)作成など、災害時の避難行動に支援が必要な方を地域で支えるための取組みを推進した。 **地 社 市**
- 災害NPOなどの専門集団、専門性や組織力のある企業・事業所等と連携した災害ボランティアセンター運営及びアウトリーチによる被災者支援の実施、並びに平時からの体制構築を進めた。 **地 社 市**
- 「久留米市成年後見センター」に機能を付加し、成年後見制度の広報・啓発、相談の機能に加え、権利擁護にかかる地域連携ネットワークのコーディネートを担う中核機関を設置した。 **地 社 市**
- 資金調達の手法を学ぶ講座の開催や活動補助、「ふるさと納税」を活用したクラウドファンディングなど、NPO・ボランティア団体の多様な資金調達を支援した。 **地 市**



■成果指標「生活自立支援センターの新規相談受付件数」



「地域をともに創る人を育む」に関して

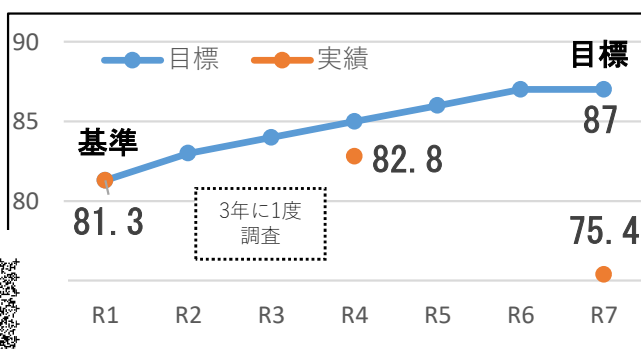
地域をともに創る人を育むため、「地域における人材の育成」「地域コミュニティ組織等への支援」「社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進」「福祉人材の養成と資質の向上」「福祉への理解を深める取組みの推進」に取り組みました。

【具体的な取組み】

- 参加支援事業において、既存の支援では対応できない本人や世帯の社会とのつながりづくりに向けた環境整備を実施。改めて「願いを叶える」視点に意義が見出され、久留米オリジナルの「叶え合う」という考え方が整理された。市民活動団体のネットワークの構築と拡大、企業の個別支援への関わりしるを広げる取組みを推進した。 **地 社 市**
- コミュニティスクール推進事業を通じた学校と地域のつながりを強化した。 **地 市**
- 地域や学校、企業等への福祉体験などの働きかけを通じて、障害等の当事者団体との連携に努めるとともに、多様性の理解にもつながるよう、体験学習プログラムを整理した。 **地 社**
- 社会貢献活動に積極的な企業・事業者と地域課題に取り組む市民活動団体との交流を促進した。 **地 社 市**
- 各法人の専門性や資源を活かし、災害時の復旧支援や生活の安定に向けた継続的な支援、物資提供などを行う「ライフレスキュー久留米連絡会」の体制を整備。社会福祉法人による公益的な取組みを推進するとともに、個別地域支援活動の充実を図った。 **地 社 市**
- ボランティアに関する個別相談への対応や、切手・ペットボトルキャップの仕分けなど「ちょっとしたボランティア」の実施によるボランティア活動に参加しやすい環境づくりを実施した。 **地 社**
- 地域生活課題をテーマとしたボランティア養成講座や福祉入門講座などを実施した。 **地 社 市**

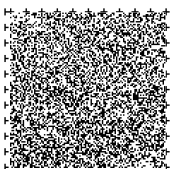
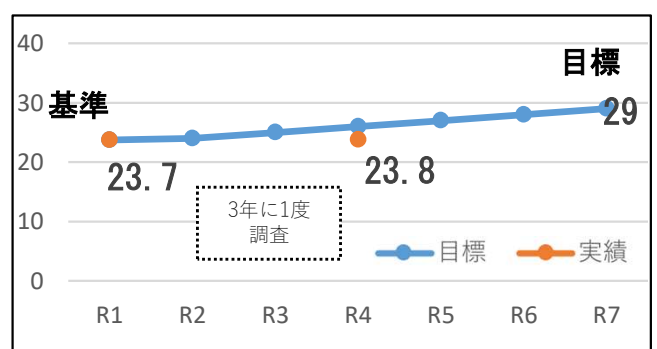
■成果指標①

「助けを求めることができる人がいる市民の割合」



■成果指標②

「困っている人の相談にのることができる市民の割合」



4-2 協議会の意見

くろめ支え合うプラン推進協議会委員(下部の部会委員を含む)へのアンケート及び協議会において、第1期プランの取組状況について次のとおり意見を受けました。

○委員アンケート(課題に対する取組状況の評価)

第1期プランの8つの課題	解決への取組 みがあまり進ん でいない	解決に向けて今 後も継続した取 組みが必要	解決への取組 みが十分に進ん だ
①支え合う意識やつながりの希薄化への対応が必要	1	38	1
②誰もが気軽に集える場の不足への対応が必要	9	29	2
③相談しづらいことへの対応が必要	4	34	2
④複合的な課題や制度の狭間の課題等への対応が必要	9	29	2
⑤地域防災力の強化が必要	9	31	0
⑥地域活動等の担い手不足への対応が必要	11	29	0
⑦地域住民等への支援の強化が必要	4	36	0
⑧情報が適切に入手できていないことへの対応が必要	10	28	2

○主な意見の内容

取組方針	主な意見
「関係を豊かにする」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・集える場に参加する人が限られている ・集える場への移動手段の確保が必要 ・地域福祉において「居場所」はキーワード
「寄り添う関係を整える」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・場や制度があるだけでなく、人がそこに「つながる」ことが必要 ・「支援」のあり方自体を考える機会も必要 ・教育との連携が必要。こども自身が意識していくことが大切 ・子育て支援では、相談支援の関係機関の連携など良い流れができてきている ・就学のタイミングで難しいことがたくさん出てくる ・不登校などの問題も家庭全体を支えていく必要があり、専門職がいれば解決できるというものでもない ・生活困窮者支援の新たな課題として居住支援、ひきこもり、居住環境改善支援がある ・支え合い推進会議などこれまでの取組みを基盤に住民の役に立つ仕組み化が必要 ・更生保護における地域連携のネットワーク構築が必要 ・防災士の活躍の場が必要 ・現実のニーズを把握しづらい課題が多い
「地域をともに創る人を育む」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の意識改革が必要。関心を持ってもらい理解者を増やすことが必要 ・地域住民や事業所などにプランの内容が十分に伝わっていない ・すべての人にわかりやすい、取組みの一歩につながるプランになってほしい ・担い手不足に対する解決策が見えない ・地域活動等に参加していない人への働きかけが必要。一歩踏み出す意識づけときっかけづくりが課題 ・取組みの必要性はわかっても市民活動団体の時間や労力に余裕がないこともある ・一団体では難しいことも分野を越えて連携することでできることもある ・働く世代に余裕がなく、地域での活躍が難しい現実がある ・PTAやコミュニティのあり方・システムを時代に応じたものに変えて行く必要がある ・地域のコミュニティで本当にやらないといけなことは何かを考えていった方が良い ・福祉の世界はボランティア精神を求められがちだが、現場には継続して支援ニーズがあり、長期的に継続していくための資金が必要

